

令和元年度 第1回教育課程編成委員会（柔道整復学科）議事録

1. 日時 令和元年9月19日（水） 17:00～18:00

2. 場所 日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

3. 出欠席

- | | | | |
|--------|-----|--|------------------|
| (1) 出席 | 委員 | 小泉 利幸（三進興産 営業部長）
道狭 浩子（ひろこ整骨治療室 院長）
加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長） | 計 3 名 |
| | 学校 | 奥田 久幸（校長）
岸本 光正（副校長）
木下 美聡（フロンティア推進部長） 司会
伊藤 恵里（副学科長）
住吉 泰之
森下 友雄 | 計 6 名 |
| | 事務局 | 大友 員彦（事務部長代行）
小浜 悠樹（教務グループ職員）
伊藤 真紀（教務グループ職員） 議事録 | 計 2 名
合計 12 名 |
| (2) 欠席 | | 伊藤 述史（東京都柔道整復師会 会長）
佐藤 和伸（佐藤代田整骨院 院長） | 計 2 名
敬称略 |

3. 議題

- | | |
|----------------------|---------------------|
| (1) 臨床実習の実施報告 | 伊藤（17:07～17:14）《7分》 |
| (2) J-UPの概要と活動内容の報告 | 住吉（17:14～17:20）《6分》 |
| (3) 4大ゼミについて | 奥田（17:20～17:20）《8分》 |
| (4) 国試対策補講について | 森下（17:28～17:35）《7分》 |
| (5) 高等教育無償化制度の申請完了報告 | 大友（17:35～17:35） |

J-UP、国試対策補講について

(委員からの質問・意見)

J-UP の取り組みはとても良いと思う。何度も繰り返すことが大切と思う。家族との共有方法はどのようにしているのか。また、その反応はどのようなものか。通信欄を設けることも検討したほうがよい。

(学校からの回答)

成績表を通して「(成績が期待するほど向上しない時期があったとしても)「応援してほしい」とコメントを入れている。学生を通して、保護者が学校からのコメントを読んでいると報告を受けている。

4 大ゼミについて

(委員からの質問・意見)

スポーツゼミについて提携先(スポーツチーム)はどのくらいあるのか。また、ゼミの学生の昼・夜間部にばらつきがあるのはなぜか。その他に活動していることがあれば教えてほしい。

(学校の回答)

スポーツチームとの連携は、具体的にはないが、西村教員が担当している日本医専トレーナーズチーム(以下 NITT)にて行っている。スポーツゼミでは、現状専門家を呼んで講演をしていただくことにとどまっている。

NITT ではサッカー、ガールズ競輪、ラグビーなどのチームとの連携をとっており、現場で活躍できるプロフェッショナルの育成を行っている。スポーツゼミは誰でも参加できるということを大切にしているので、質的に違う取り組みとなっている。

ばらつきがあるのは、担当教員の所属も影響している可能性も高い。ゼミによっては初回の説明会が 15:00~設定したが昼間部の学生にとっては参加しにくい時間帯であったため、次年度から改善したい。

4 大ゼミの他、非常勤講師の遠畑先生が臨床でも活かせる包帯巻きのゼミを行っている。

臨床実習について

(委員からの質問・意見)

登録している院のうち実際にはどのくらい院で実習を行っているのか。実習先の登録の内容について詳しく教えてほしい。また、実習院が拡大した要因はなにか。

(学校の回答)

1 院 1~2 名を実習させていただいている。ほとんど全部の院で実習を行う予定である。今後、よい悪いや受け入れ不可の院もでてくるかもしれないが、今はまず、この取り組みを進めたいと思っている。

九州(福岡)の出張で、臨床実習の受け入れ先である院の「質・レベルの低さ」に心配し

ていたが、東京地区の院の先生方は皆さん真摯な態度で臨んでくださっていた。

登録は「本校の実習先」として都に登録する。他校でも行う場合は他校でも登録する必要がある。本校で登録先（院）を囲うつもりは全くなく、この取り組みを広めていきたいと思っている。他校から（実習先登録の）依頼を受けた際には、「ぜひ引き受けてほしい」と呼びかけをしている。

実習先として登録するには条件がある。「5年以上の開業実績」「1日平均来院患者数20名以上」「指導者としての適性」かつ、2日間の研修を受けた院のみが登録することができる。公益社団法人 東京都柔道整復師会と連携をし、共同して取り組むことができたことも拡大要因の一つである。また、院のよい質の担保もできたと思っている。

国試対策補講について

（委員からの質問・意見）

「成績上位者」とは何%なのか？また、国試対策の出席率とは（3年生）全体から見ての割合なのか？全体の底上げが大変重要であると思う。J-UPの取り組みが底上げにつながることを期待している。

（学校の回答）

具体的なパーセンテージは出していない。出席率については全体から見る割合である。出席率と成績上位者の割合は比例している。

《18:00 終了。18:00～18:10 まで休憩》

令和元年度 第1回教育課程編成委員会（鍼灸学科）議事録

1. 日時 令和元年9月26日（木） 14:00～15:00

2. 場所 日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

3. 出欠席

- (1) 出席 委員 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
高島 風香（カリスタ株式会社 執行役員）
鈴木 幸次郎（天心堂鍼灸院 院長） 計3名
- 学校 奥田 久幸（校長）
岸本 光正（副校長）
青木 春美（学科長）
中村 幹佑（教務委員長）
渡邊 靖弘（司会）
亀谷 文人
徳江 謙太 計7名
- 事務局 小浜 悠樹（教務グループ職員）
柏 達也（教務グループ職員）
伊藤 真紀（教務グループ職員） 議事録 計3名
- (2) 欠席 委員 藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役） 1名
敬称略

4. 議題

- (1) 国試対策補講の実施内容の報告 亀谷（14:03～14:11）《8分》
(2) 早期国試対策補講の実施内容の報告 徳江（17:14～17:20）《6分》
(3) 臨床現場の講演実施について 青木（17:20～17:28）《8分》
(4) 臨床実習の報告 渡邊（17:28～17:35）《7分》
(5) 高等教育無償化制度の申請完了報告 中村（17:35～17:35）

国試対策補講の実施内容の報告について

(学校からの委員への質問)

学生のモチベーションを維持することが課題である。社員のモチベーション維持のために行っていることなどあれば、教えてほしい。

(委員からの意見)

7・8月に総合講座という科目で「臨床現場について」の授業を行ったが、クラスの色合いを実感した。仲の良いクラスは統一感を感じた。「勉強がわからない」以前の問題として学校に対して不満があったり、クラスでの居心地の悪さを感じている学生もいるように感じた。一人ひとりに向き合い、話を聞き、コーチングすることがモチベーションを維持することにつながると思う。

グループで短い目標設定をしてもらい、互いに教え合う方法も効果的である。教える側になると学習意欲が高まると思う。

早期国試対策補講の実施内容の報告について

(委員からの意見)

とてもよい取り組みだと思う。対象は1年生だけなのか。

図書館の本の充実さも大切であり、入門編の蔵書を増やすことがモチベーションの向上につながると思う。

(学校からの回答)

1年生が肝だと思っている。今後体系的に行っていき、他学年にも応用したい。

臨床現場の講演実施について

(学校からの質問)

学生にとってとてもよい取り組みであった。対象学年、内容、実施回数等に改善すべき点があったら教えてほしい。

(委員からの回答)

対象学年：目的によって違う。1年次に職業理解という観点で行うことは大切。

内容：目標を明文化して提示してもらうことによりフォーカスした内容を話すことができると思う。次回は事前に内容のすり合わせを十分に行いたい。

実施回数：適切だと思う。

臨床実習の報告について

(委員からの意見)

毎回同患者なのか。

(学校からの質問)

新患9割、再来1割で毎回違う患者を診療する。同じ患者だとしても施術者(教員)が毎回違う。順調に進めているが、今後中だるみする学生がいるのではないか心配である。中だるみ防止策があれば教えてほしい。

(委員からの意見)

学生にとって大変勉強になると思う。担当教員の強みや学んでほしいポイントを明確にし、提示するとより良いのではないか。

現場ですぐに活躍できる人は手力・手慣れ感があることと、コミュニケーション能力が高い人である。また、様々な流派を知っていると選択肢が広がるので、学生の頃から知っておくとよい。

高等教育無償化制度の申請完了報告

令和2年度 第2回教育課程編成委員会（柔道整復学科）議事録

1. 日時 令和2年2月18日（火） 17:05～18:00

2. 場所 日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

3. 出欠席

(1) 出席	委員	伊藤 遼史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 会長） 佐藤 和伸（佐藤代田接骨院 院長） 小泉 利幸（三進興産 営業部長） 道狭 浩子（ひろこ整骨治療室 院長） 加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）	計5名
	学校	奥田 久幸（校長） 岸本 光正（副校長） 木下 美聡（フロンティア推進部長） 司会 伊藤 恵里（副学科長） 中村 幹佑（教務委員長） 大友 員彦（事務部長代行） 小浜 悠樹（教務グループ職員） 柏 達也（教務グループ職員） 兼子 啓太郎（教務グループ職員） 伊藤 真紀（教務グループ職員） 議事録	計10名 合計15名

敬称略

3. 議題

(1) 臨床実習について	伊藤 恵里
(2) 超音波画像診断授業について	横山
(3) 機能訓練指導員の授業について	木下

臨床実習について

(委員からの質問・意見)

実際に実習に行った学生の本音を聞きたい。学会やその他会議で共有し、より良い実習ができるように協力したい。

(学校からの回答)

治療院によって見学内容に差がでていた。

実際に治療を見学させていただける院もあれば、カーテン越しにしか立ち会わせていただけなかった院や受付業務だけの院もあった。実習内容や学生の感想は、学校でとりまとめて、委員の先生に後日共有させていただく。

(委員からの質問・意見)

評価シートは学生にフィードバックされるのか。

実習を受け入れた院としては、他の診療もありコメント欄を記入する時間を確保するのは難しかったのだが、他の院はどうだったのか。

(学校からの回答)

忙しい時間の中で学生一人ひとり进行评估してくださったことを感謝している。コメント欄の記入については無理のない範囲でご協力いただけるだけありがたいと思っている。

「評価シート」(冊子)に記入された評価は、学生自身が確認している。保管するように指導した。

(委員からの質問・意見)

学生に目的意識をしっかりと持たせて送りだしてほしい。特に昼間部の学生の中には、白衣を忘れてきたり、診療開始時間ギリギリに来る学生もいた。着替えが整うころには診療がすでに始まっていた。

(学校からの回答)

ご迷惑をおかけし大変申し訳なく思っている。そのようなことがないように今後の指導に活かしたいと思っている。

(学校からの質問)

現在、3年次秋期に行われている業界説明会の開催時期について就職が決まる前の開催が望ましいと思っているのだが、ご意見を頂戴したい。

(委員からの回答)

時期を早めて開催することに賛成である。3年次の春から夏にかけて開催できるように申請をしていただきたい。

超音波画像診断について

(学校からの質問)

今年の臨床実習の授業内4回において「超音波画像診断」の授業を行ったが、4回だけでは十分に学習することができなかったと思う。適切な授業回数、学習到達レベルをどの程度に設定すればよいか意見をいただきたい。

(委員からの回答)

現在、超音波画像診断の普及率は10%くらいである。更に普及させるために日整では撮影方法についてのDVDを作成している。(学校に配布するかは未定)

また、全国各地で撮影の仕方について勉強会も実施している。勉強会では学生が目を輝かせて、楽しんで学んでいる。到達レベルや回数の設定よりもまずは、「学生に楽しんで取り組んでもらうこと」が重要であり、普及の要だと思っている。

(学校からの回答)

4回の授業では学生が楽しんで学んでいた。来年度からは学生数も増えるので教員を増やして対応したいと思う。

機能訓練指導員の授業について

(学校からの質問)

機能訓練指導員を目指す学生に対し、今後どのような技術・知識を学ばせることが現場に役立つのか、ご意見をいただきたい。

(委員からの意見)

座学で学んだ内容が実技授業とリンクした時が一番勉強になり、活かされると思うので、授業と実習の実施時期が同時期になるように工夫すると良いと思う。

令和元年度 第2回教育課程編成委員会（鍼灸学科）議事録

1. 日時 令和2年2月20日（木） 14:00～15:00

2. 場所 日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

3. 出欠席

- | | | | |
|--------|----|--|-----------|
| (1) 出席 | 委員 | 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
高島 風香（カリスタ株式会社 執行役員）
鈴木 幸次郎（天心堂鍼灸院 院長） | 計3名 |
| | 学校 | 奥田 久幸（校長）
岸本 光正（副校長）
青木 春美（学科長）
中村 幹佑（教務委員長）
渡邊 靖弘（司会）
天野 陽介（鍼灸学科教員）
大友 員彦（事務部長代行）
小浜 悠樹（教務グループ職員）
柏 達也（教務グループ職員）
兼子 啓太郎（教務グループ職員）
伊藤 真紀（教務グループ職員） 議事録 | 合計11名 |
| (2) 欠席 | 委員 | 藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役） | 1名
敬称略 |

4. 議題

- | | |
|--------------------------------|----|
| (1) 臨床実習について | 渡邊 |
| (2) DP(ディプロマ・ポリシー)における態度教育について | 中村 |

臨床実習について

(委員からの質問)

患者はどのように集めているのか？

(学校からの回答)

すでに通院している人に協力してもらったり、学生の周りの人を紹介してもらった。「臨床実習2」では経過して症状を見たかったため、3クール通院できる人を募集したが、うまく予約などがとれなかった。今後の課題である。

(委員からの意見)

臨床実習は鍼灸の楽しさ（「治す」経験）や成功体験、がある実習であってほしい。現場で新卒者の指導をしていると「在学中は鍼灸の面白さがよくわからなかった」という声をよく聞く。

同様に、失敗することも大切であり、リカバリーの仕方を考える時間は非常に重要である。どのような治療をすればよかったのか図書館で調べたり、教員に聞いて振り返ることがとても大切である。同じ患者を複数回治療することができ経過観察をすることができるなど、次回の施術に意識を向けながら治療経験ができるとより良いと思う。一通りの流れを経験することが大切だと思う。

DP(ディプロマ・ポリシー)における態度教育についてについて

(学校からの質問)

【態度】教育の4項目目「生涯にわたって社会に貢献し自ら生き抜くことができる」は「この業界で食べていける」という意味合いで設定している。学校教育の中でどのような取り組みや授業を行えば、この業界で生き抜いていく力が身に付くのか、もしくはどのような力が必要なのか、経営や臨床などの多角的な視点からのご意見を頂戴したい。

(委員からの意見)

「食べていける」という表現は「この業界はきつい」という印象を学生に与えかねないと思う。実習や授業の中で、技能や知識を習得した喜びが実感できるようにすることも大切。例えば、技能やレベルが上がるたびに星を取得していく「5つ星制度」はカリスタで実際に行っている。採用側としては「素直さ」が大変重要であると思っている。学生の中にはセカンドキャリアの世代も多くいると思うが、ぜひ「素直さ」の教育も行っていただきたい。